

聖書：ローマの信徒への手紙 15 章 2 節

「おのおの善を行って隣人を喜ばせ、互いの向上に努めるべきです」

今週はキリスト教強調週間ですね。私はテキストの中に登場する「隣人」という言葉が特に今年は気になっています。「隣人」と聞くと思い浮かぶのは「隣人愛」という言葉です。常日頃「隣人」の存在や「これって隣人愛！」と思うことは多いのですが、今年は特にそういう機会が多いです。

私のお腹には今7ヶ月になる子供がいます。とても嬉しいことですが、小さなことで言えば、重いものを持つなど、「お腹に子供がいるからしない方がいい」ことやその他にも「できなくなったこと」が沢山あります。誰かの手を借りる必要も多くなり、歯がゆさや申し訳なさを感じることもよくあります。

ただ、こんな気持ちを和らげてくれるのが周囲の方々の存在です。一緒に働く先生方や生徒のみなさんがかけてくれる温かい言葉や、さしのべてくれる手の一つ一つです。「元気？大丈夫？」と声をかけてもらえるだけでも嬉しかったりします。保護者の方々も実の親のごとく声をかけてくださいます。最近では、見知らぬ方にも親切にしてもらうことが多くなりました。私と、まだ生まれてさえない者に対して向けられるこの数々の言動に対し、「これが隣人愛のなせる業か・・・」と痛烈に感じ入る。そんな毎日を過ごしています。それと同時に、隣人愛によって命は支えられているのだ、と改めて気づかされました。頭ではわかっていたこの命の重みや有り難みが、ありありと感じられるようになりました。

そして、私もいつか何かお返しをしたい、と思ったり・・・と今まで以上に考えるようになったりもしました。この隣人愛とやらは伝染するものなんだ！という発見もありました。

とりとめもなくお話をしましたが、結局のところ伝えたいのは次の内容です。

ちょっとした意識で誰でも隣人になれること。

この世に生を受けている限り、自分のそばには隣人がいること。

そのことに気づけばうれしい連鎖が続くこと。

この三つです。このことを覚えつつ今日一日を過ごしてください。

(国語科 T. E)